

多摩市青少年問題協議会
令和元年度 第3回青少年健全育成委員会 議事録

- ◆日 時 令和元年9月12日(木) 午後7時～午後9時
- ◆場 所 301・302会議室
- ◆欠席委員 出口委員(1名)
- ◆議 題
 - 1 「ともに学び、楽しむ場を地域でつくるために」の提言をつくるための項目立てについて

1 提言をまとめるための項目立てについて

<議長>資料「提言のためのキーワード」をもとに、「ともに学び、楽しむ場を地域でつくるために」という提言をつくるための項目立てについて皆さんの意見を伺いたい。

- 大人が子どもの計画をサポートしていくという観点は大事である。
子どもの主体性を尊重して大人がサポートしていくという観点は大事である。
- 地域のお祭りに参加して中学生が地域の人と一緒に祭りをつくりあげていく中で地域の人とコミュニケーションをとっていく場をつくる。
子供たちが企画した屋台を大人がサポートするような形が理想的である。
- スポーツや行事に参加することで人とのつながりの中で心を育てるという視点が重要である
- 「ともに学ぶ」と「ともに遊ぶ」という分け方をすると勉強と遊びという分け方になってしまう。学びながら遊ぶ、遊びながら学ぶという視点が必要ではないか。
- スポーツ、お祭り、防災訓練といった場面についての話と子どもの主体性を持たせる、大人のサポートといった体制づくり、人とのつながり、心を育てるといった理念についての意見が議論の中で述べられている。この3つの切り口からまとめるのが良いのではないか。
- 「家庭において」「地域において」「学校において」「行政において」といった従来の健全育成委員会報告の切り口を使ったらどうか？
- 学校では働き方改革が大きな問題となっている。地域の活動に教員が参加したいという思いはあるが、教員の残業時間を減らしたいという一面もあり、板挟み状態である。
- 地域の人が見える取組は重要である。直接「ありがとうございます」と声をかけたり、かけられたりすることは重要である。

- 学校においては子供たちの主体性を育てていくことが重要である。地域においては次に担い手を育てていくことが課題となっている。
- 行事を通して人との出会いの場を作ることが大事である。
- 中学校では地域の方や保護者にどうすれば来てもらえるかが課題である。
- 中学生がお店を出し、コミュニケーションを深める。大人も屋台をだし、1000人以上の地域の方の参加があった。地域で行うイベントに参加することは大事である。
- 地域の方にほめられたり、といった地域の方との交流をしている時の中学生はいい顔をしていると思う。ただ学校では情報量が多く、地域の行事への子どもの参加が増えているとはいえない。地域の方の中学校へのPRの工夫があってもよいと思う。
- ザリガニ釣りに子供たちが夢中になっている。子どもは生の体験をもとめているのでは。ゲームにばかり興味がいつってしまうのは、このような生の体験をする機会が今の子どもに少ないからではないか。大人が子どもに生の体験をさせる工夫をする必要がある。
- 今やっていることをともに学ぶ、ともに楽しむという視点からこんな意味があるというPRをするような提言となればよい。
- 中学校では部活や塾で忙しい子が多い。逆に部活動や塾に通っていない子の方が心配である。このような子が地域の活動に巻き込んでいければと思う。
- 畑の土いじりの体験などは、ゲームとは違った生の体験ができ、子どもは生き生きとしている。忙しい中で30分といった短い時間でよいので参加できると良いと思う。
- ボランティアは大事な活動であるが、強制となつてはいけなない。ただボランティアをすることの楽しさはやってみないとわからない一面がある。
- スポーツや農業体験といった行事の後に一緒に食を楽しむ中で会話がはずみ、気持ちが満たされることが多い。次回の参加につながっていくことが多い。
- 貝取地区委員会のキャンプでは中学生になると、リーダーとして参加し、小学生の参加者の面倒をみている。小学生の中には中学生になって、リーダーになってみたいという子もいる。リーダーの行動をみて自分もやってみたいと思ったのではないか。やって良かったという思いがジュニアリーダーの育成につながる。